

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

12月報

インフルエンザ/COVID-19定点（小児科定点を含む）

※令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、定点医療機関による定点把握となっています。

インフルエンザ： 11,761件（前月比1.0、前年同月比28.2）でした。前年同月比が著しく上昇しています。発生数は、5月（790件）から7月（2,259件）までは連続して増加していましたが、8月（1,188件）には減少に転じました。その後、9月（3,116件）からは再び連続して増加しており、12月（11,761件）はピーク値となっています。熊本県下で広く流行しています。今後もさらに増加する可能性があり、今後の発生動向に注意が必要です。

新型コロナウイルス感染症： 1,670件（前月比2.1、前年同月比-）でした。発生数は6月（2,685件）から8月（7,128件）までは連続して増加していましたが、その後は減少に転じ、11月（780件）までは連続して低下していましたが、12月（1,670件）には再び、増加に転じており、今後の発生動向に注意が必要です。

小児科定点

（全体傾向）

17,210件（前月比1.04、前年同月比5.93）であり、前年同月比は大きく上昇しています。前年同月比はインフルエンザ：11,761件（前月比1.0、前年同月比28.2）、A群溶連菌咽頭炎731件（前月比0.9、前年同月比20.3）、咽頭結膜熱701件（前月比0.7、前年同月比18.4）が特に高い値になっています。前月比は新型コロナウイルス感染症：1,670件（前月比2.1、前年同月比-）が上昇しています。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症： 13件（前月比1.9、前年同月比0.1）でした。発生数は5月（118件）から連続して増加し、7月（693件）をピークとして減少に転じ、12月（13件）まではほぼ連続して減少しています。前年同月比は0.1と低下しており、例年よりは低い値で推移しています。
2. 咽頭結膜熱： 701件（前月比0.7、前年同月比18.4）でした。前年同月比が著しく上昇しており、例年より高い値で推移しています。発生数は9月（186件）から連続して増加し、11月をピーク値として、12月（701件）には減少に転じています。菊池（27.60）、有明（21.00）、宇城（20.00）が特に高くなっています。
3. A群溶連菌咽頭炎： 731件（前月比0.9、前年同月比20.3）でした。前年同月比が著しく上昇しており、例年より高い値で推移しています。発生数は8月（234件）から連続して増加しており、11月をピーク値として12月（731件）には減少に転じています。菊池（30.60）、熊本（21.38）が特に高くなっています。
4. 感染性胃腸炎： 1,805件（前月比1.1、前年同月比1.1）でした。発生数は、6月（2,223件）をピーク値として、以後は10月（993件）まで連続して減少していましたが、11月（1,675件）からは増加に転じています。例年並みで推移しています。菊池（97.40）、有明（66.00）が特に高くなっています。
5. 水痘： 59件（前月比1.4、前年同月比1.3）でした。例年並みで推移しています。有明（4.40）が高くなっています。

6. 手足口病 : 122件 (前月比0.4、前年同月比0.6) でした。発生数は4月 (26件) から連続して増加し、9月 (569件) をピーク値として、以後は連続して低下しています。菊池 (7.60) が特に高くなっています。
7. 伝染性紅斑 : 1件 (前月比-、前年同月比0.3) でした。発生数は1年間を通して、一桁の低い値で推移しています。
8. 突発性発疹 : 72件 (前月比0.7、前年同月比0.6) でした。前年よりは低い値で推移しています。
9. ヘルパンギーナ : 27件 (前月比0.3、前年同月比0.2) でした。発生数は7月 (792件) をピークとして、その後は連続して減少しています。夏季には例年より高い値で流行していましたが、11月 (84件) 以降は例年より低い値で推移しています。
10. 流行性耳下腺炎 : 9件 (前月比1.3、前年同月比0.9) でした。4月 (15件) から8月 (24件) にかけては例年より高い値で推移していましたが、9月 (12件) 以降は例年並みで推移しています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 73件 (前月比1.0、前年同月比5.6) と前年より増加しています。熊本67件、菊池3件、有明2件、天草1件の報告です。年齢別では30~59歳にピークがありますが、1~4歳の乳幼児層にも散発しており、特に1歳が目立ちます。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 : 72件 (前月比0.9、前年同月比1.0) でした。男女別は、男性47件、女性25件でした。年齢別では男女とも20代に集中していました。地区別は、熊本市59件、次いで御船 (女性のみ)、八代でそれぞれ4件、菊池 (女性のみ) で3件、有明で2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 : 25件 (前月比1.3、前年同月比1.0) でした。男女別は、男性16件、女性9件でした。年齢別では男性では20代から60代、女性は20代から70代に認めました。地区別は、熊本で13件、八代で女性のみ7件、宇城で男性のみ4件、菊池で女性のみ1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 13件 (前月比1.6、前年同月比2.2) でした。男性10件、女性3件でした。年齢別では男性では20代から60代に、女性は10代から30代に認めました。地区別は、熊本市からの報告のみでした。
4. 淋菌感染症 : 25件 (前月比0.8、前年同月比1.3) でした。男女別は、男性23件、女性2件でした。年齢別では20代をピークに男性では20代から50代に、女性は20代と50代に認めました。地区別は、熊本21件、宇城で男性のみ2件、有明も男性のみ1件でした。八代で女性のみ1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
29件（前月比1.0、前年同月比1.5）でした。0歳3件、70歳以上20件でした。山鹿、熊本、阿蘇が定点あたり5.0、3.4、3.0と多くなっております。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
1件（前月比0.2、前年同月比0.3）でした。前月より大きく減少しました。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
0件（前月比-、前年同月比-）でした。過去一年で1例と減少しています。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 1件（前月比0.5、前年同月比-）でした。
2. 無菌性髄膜炎： 0件（前月比-、前年同月比-）でした。
3. マイコプラズマ肺炎： 0件（前月比-、前年同月比-）でした。
4. クラミジア肺炎： 0件（前月比-、前年同月比-）でした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
0件（前月比-、前年同月比-）でした。

届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	11件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	3件
4類感染症	： つつが虫病	7件
	レジオネラ症	4件
	E型肝炎	1件
5類感染症	： ウイルス性肝炎	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1件
	播種性クリプトコックス症	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
	梅毒	18件
	百日咳	1件